

製品名: ARK-1 (リン酸化 Thr288) ウサギポリクローナル抗体

カタログ番号: APRab04258

研究使用のみ

概要

説明	ウサギポリクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	WB,IHC,ICC/IF,ELISA
反応性	ヒト、マウス、ラット
標識	非共役
修飾	リン酸化
アイソタイプ	IgG
クローン性	ポリクローナル
形態	液体
濃度	1mg/ml
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください (12 ヶ月有効)。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	50% グリセロール、0.5% 保護タンパク質、0.02% 新タイプ防腐剤 N を含む PBS 液。
精製	アフィニティー精製

応用

希釈倍率	WB 1:500-1:2000,IHC 1:100-1:300,ICC/IF 1:50-1:200,ELISA 1:5000-1:10000
分子量	45kDa

抗原情報

遺伝子名	AURKA AURKA; AIK; AIRK1; ARK1; AURA; AYK1; BTAK; IAK1; STK15; STK6; Aurora kinase A; Aurora 2;
別名	Aurora/IPL1-related kinase 1; ARK-1; Aurora-related kinase 1; hARK1; Breast tumor-amplified kinase; Serine/threonine-protein kinase 15; Serine/threonin
遺伝子 ID	6790.0
SwissProt ID	O14965
免疫原	抗血清は、Thr288 のリン酸化部位周辺のヒトオーロラキナーゼ由来の合成ペプチドに対して作製された。アミノ酸範囲: 256-305

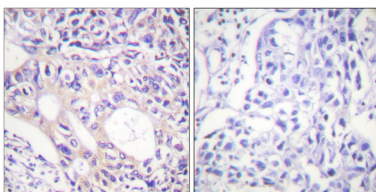
背景

この遺伝子によってコードされるタンパク質は、細胞周期制御性キナーゼであり、染色体分離中の紡錘体極における微小管形成および/または安定化に関与していると考えられます。コードされているタンパク質は、間期細胞では中心体、有糸分裂では紡錘体極に存在します。この遺伝子は腫瘍の発生および進行に関与している可能性があります。この遺伝子のプロセスされた擬似遺伝子は1番染色体上に、プロセスされていない擬似遺伝子は10番染色体上に存在しています。この遺伝子には、同じタンパク質をコードする複数の転写バリエーションが見つっています。[RefSeq 提供、2008年7月],触媒活性: ATP + タンパク質 = ADP + リン酸化タンパク質。注意: 著者らは STK6 と STK15 を2つの異なるタンパク質とみなしていますが、これらは同じタンパク質であることは明らかです。疾患: AURKA の欠陥は、異数性を含む中心体の数値的異常の原因です。機能: 染色体分離中の中心体/紡錘体極領域の機能に関連して、分裂後期および/または分裂終期の細胞周期調節に役割を果たす可能性があります。微小管の形成および/または安定化に関与している可能性があります。ARHGEF2 および BORA をリン酸化します。PTM: DNA 損傷時に、おそらく ATM または ATR によってリン酸化されます。類似性: タンパク質キナーゼスーパーファミリーに属します。類似性: タンパク質キナーゼスーパーファミリーに属します。Ser/Thr タンパク質キナーゼファミリー。Aurora サブファミリー。類似性: 1つのタンパク質キナーゼドメインを含む。細胞内局在: 間期細胞では中心体、有糸分裂では各紡錘体極に局在する。サブユニット: TACC1 および CPEB1 と相互作用する。基質である BORA および ARHGEF2 と相互作用する。組織特異性: 精巣で高発現し、骨格筋、胸腺、脾臓では弱発現する。また、結腸がん、卵巣がん、前立腺がん、神経芽腫、乳がん、子宮頸がんの細胞株でも高発現する。発現は細胞周期によって制御され、G1/S 期では低く、G2/M 期には蓄積し、その後急速に減少する。

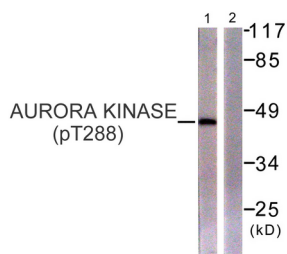
研究分野

卵母細胞減数分裂;

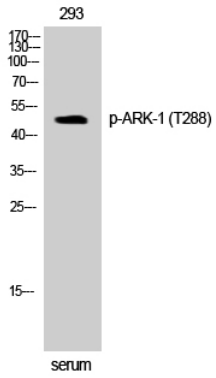
画像データ



オーロラキナーゼ (リン酸化 Thr288) 抗体を用いたパラフィン包埋ヒト乳癌の免疫組織化学染色。右の写真はリン酸化ペプチドでブロッキングした状態。



血清 20% 15' で処理した 293 細胞ライセートの Aurora Kinase (リン酸化 Thr288) 抗体を用いたウェスタンブロット解析。右レーンはリン酸化ペプチドでブロッキングされている。



リン酸化ARK-1 (T288) ポリクローナル抗体を用いた 293 細胞のウェスタンブロット解析